

食べ物を
飲み込むとき
のどに引っかかる

食べるときに
咳が出る

食べ物を
うまく飲み込めず
食事の量が減った

食事に
時間がかかる

飲み物を
飲み込むときに
むせる

こんな症状で ご自身やご家族の方が 悩んでいませんか？

もしかしたら
“嚙む力”や“安全に飲み込む力”
(=摂食嚥下機能)が
低下しているかもしれません。

本院の摂食嚥下外来では
摂食嚥下状態の検査・治療を行っています。

一つでも症状が当てはまる方は
ぜひ、かかりつけ医・歯科医に
ご相談ください。



検査について

●スクリーニング検査

反復唾液飲み検査や水飲みテスト、食物テストを行い、嚥下状態を確認します。また、血中酸素飽和濃度もチェックします。

●口腔内検査

歯や歯ぐきの状態、舌の動き、嚙む力などを視診、触診で検査し、そしゃく機能を確認します。

●嚥下内視鏡検査(VE)

鼻から内視鏡を挿入し、食物や飲み物を飲み込む際の喉の動きを確認したり、食物が気管に入らないかを調べたりします。



●嚥下造影検査(VF)

造影剤を含んだ食物や飲み物をX線透視下で飲み込み、嚥下の様子を確認・評価します。

食事の調整やリハビリを継続しても改善しない
場合には、手術を行うことがあります。

嚥下機能改善手術

のどを嚥下しやすい形状にする手術です。
術後にリハビリが必要です。

誤嚥防止術

食べ物の通り道と気道を分離し、誤嚥を完全に
防止する手術です。

お問い合わせはこちらまで

山口大学医学部附属病院

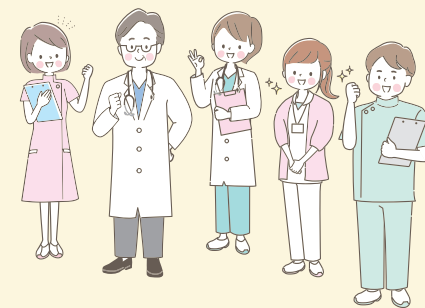
〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1
TEL:0836-22-2520(耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来)



山口大学医学部附属病院

摂食嚥下 外来

ご利用案内



 YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

摂食嚥下外来について

“摂食嚥下”とは、食べ物を口の中に入れて噛み、飲み込むという一連の動作を指します。この過程のいずれかにおいて、何らかの障害が起きた状態を「摂食嚥下障害」と言います。摂食嚥下障害が起きる要因は、加齢をはじめ、脳卒中や手術、放射線治療の影響によるものなど多くあります。摂食嚥下外来では、そうした患者さんを対象に治療を行っています。

摂食嚥下専門チームが対応

本院には摂食嚥下専門の医療チームがあります。耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科口腔外科医師、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士の多職種で構成し、安全な食事を支援するために、さまざまな摂食嚥下治療を行っています。



摂食嚥下専門スタッフ

継続的なフォローアップ体制

●個別化・オーダーメイドの訓練プログラム

多職種連携による定期的なカンファレンスを行います。また、VE・VF検査結果に基づき、患者さん一人ひとりに合わせたプログラムを提案します。

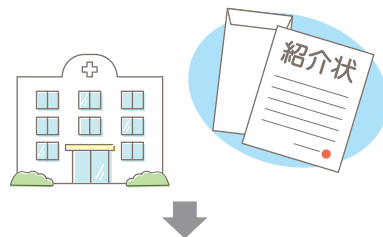
●入院から外来へのスムーズな移行を支援

入院時に、外来へ移行するまでの治療プランを患者さんに提案します。リハビリの内容について具体的なデモンストラーションを行い、自宅環境の評価や個別の食事指導を行います。

受診方法

外来受診の方

あらかじめ、かかりつけ医・歯科医にご相談いただき、医師による予約取得の上、紹介状をお持ちになってご来院ください。



摂食嚥下外来へ

※ホームページから専用の問診表をダウンロードし、事前にご記入をお願いいたします。
※受診後は、摂食嚥下状態を確認するための検査を受けていただきます。

入院中の方

現在入院中で、飲み込みに関して心配がある方は病棟スタッフにご相談ください。



摂食嚥下外来へ

※受診の受付などは、主治医が行います。

治療の流れ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科受診

嚥下内視鏡検査をはじめとする各種検査を行い、リハビリテーションの処方を行います。

歯科口腔外科受診

患者さんの口腔機能の評価と口腔ケアを行います。必要に応じて、摂食嚥下機能を補助する装置を作製します。

栄養指導・栄養評価

患者さん一人ひとりの摂食嚥下機能に応じた適切な食事の形態や、栄養指導を行います。



リハビリテーション

言語聴覚士が、患者さん一人ひとりの病態に合わせたオーダーメイドのリハビリテーションを行います。



多職種カンファレンス

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科口腔外科医師、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士が集まり、栄養アセスメントや食事形態・リハビリテーションについて検討します。



毎週金曜の午前中に実施しています。